

(7) 那覇西地域 まちづくり方針



位置と地勢

本地域は、本市の西部に位置しており、「浮島」と呼ばれていた時代から港町として栄えました。明治時代以降の本格的な埋め立てにより形成された海拔の低い平坦な地形上に、戦後の区画整理による碁盤目状の区画が広がっています。海岸線は、港湾施設や護岸整備がなされていますが、一部に自然の地形が残っています。

成り立ち

14世紀頃から、琉球王国は中国をはじめとしたアジアの国々と盛んに交易を行い、国際性豊かな港町として、また、商人・職人のまちとして発展しました。西村、東村、若狭町村に多様な人々が住み、久茂地川を隔てた対岸にあった泉崎村を合わせた四村は、やがて「那覇四町」と呼ばれ、那覇の中心として発展します。

中国との交易にあたり、通訳などとして中国福建省からの渡来人（久米三十六姓）の集落として久米村が形成されます。久米村にほど近い波上宮は交易船の安全を祈願する場として人々から崇められ、隣接する護国寺とともに国王が参詣した重要な寺社でした。また、15世紀頃に築造された長虹堤により潮の流れが変わったことで、潟原と呼ばれる遠浅の干潟が形成され、1944（昭和19）年の埋め立てまで塩づくりが行われていました。16世紀には那覇港の北岸に三重城、南岸に屋良座森城が港の防備のために築造されました。

1609年の琉球侵攻によって、琉球王国は薩摩の下に置かれることとなりますが、その後も、貿易港としての那覇港の地位は変わらず、日本や中国へ往来する船が行き交いました。

戦時中、那覇港は軍用としても利用され、多くの児童が犠牲となった疎開船対馬丸も那覇港から出港しました。2004（平成16）年に対馬丸記念館が整備され、なぐやけの碑などがある旭ヶ丘公園では慰霊祭や平和学習が行われています。

戦後は、破壊された那覇港、泊港の整備が進められたほか、戦災復興土地区画整理事業が実施されました。また、1956（昭和31）年には、本市初の市営住宅である若狭市営住宅が建設されたほか、若狭の間屋街、辻の歓楽街などが形成されました。

近年は、那覇ふ頭の明治橋際から泊ふ頭の泊漁港にかけて、ウォーターフロントの特性を活かしたプロムナードの整備が進められています。また、2011（平成23）年の那覇うみそらトンネル開通、2013（平成25）年の波の上うみそら公園供用開始、2014（平成26）年の那覇クルーズターミナル整備など、那覇港の機能強化が進められ、多くの観光客が訪れる海の玄関口としての役割が重要になっています。

地域 の 特 性

① ウォーターフロントが形成されています

本地域は、市街地と海浜が隣接する地域で、離島航路がある泊ふ頭地区（とまりん）、観光航路がある那覇ふ頭地区、波の上ビーチ、うみそら公園、大型旅客船バース（若狭バース）などがあるウォーターフロントのまちです。国道 58 号沿いは業務系、若狭大通りや辻一帯には飲食街、東町や西周辺には卸売業が立地していますが、全体的に建物用途の混在が目立つ地域です。



▲ 若狭緑地から新港ふ頭方向を望む

② 中国との交易を語るまちです

琉球王国が中国との交易を行う上で、重要な港町であった本地域には、中国から移住してきた人々の集落である久米村があり、クニンダと呼ばれていました。本市と中国福州市の友好・交流を記念して、福州園の整備や龍柱の建設が行われました。また、久米至聖廟、明倫堂などの、当時の交流の歴史を伝える施設が多くみられます。



▲ 松山公園内の「久米村発祥地の石碑」

③ 最初の戦災復興事業が行われました

戦後、疎開先から戻った市民の住宅不足が深刻であったことから、本地域と那覇中央地域にまたがるエリアにおいて、戦災復興土地区画整理事業が実施されました。本地域は、全体的に面整備がなされていますが、歩道の確保や沿道緑化などは十分ではなく改善が求められています。都市基盤としては、国道 58 号や臨港道路など、広域的な幹線道路が地域を縦断しているほか、海浜に沿って、高規格道路である那覇北道路の整備が予定されています。



▲ 那覇第一地区土地区画整理事業の測量の様子
(提供：那覇市歴史博物館)

ワークショップなどからの市民のみなさんの声

那覇西地域



昔の街並みには戻せなくても、人々が生活していた歴史や文化がわかるようにしたい。



地域の資源でもある波の上宮は、参道を整備してほしい。孔子廟跡地も空手や琉舞、旗頭とかの演舞場にしてはどうだろう。



若狭バスから久茂地までの通りは観光客も多いから、シンボル通りとしての景観づくりをしていきたいね。

地域の歴史や文化を活かしたまちづくりや景観づくりについても、取り組んでいきます。



海が近いから、津波が心配だわ。津波避難ビルになる建物を増やしてほしいわね。



外国人移住者や観光客もたくさんいる地域だから、いざという時の避難誘導も考えないといけないね。

そうですね、海に面している地域なので津波や高潮などにも備えておく必要がありますね。安全安心な暮らしへの対策も考えていきます。



観光客が増えて、お土産などが充実した店舗も増えているけど、日常的な買い物も便利になってほしいなあ。



西町の倉庫街は、新しいまちづくりのあり方を考えたい。

那覇西地域是那覇市の中心部に近いので、都市型居住のライフスタイルをめざしていきたいと思います。



地域の将来像

うみそら公園や波の上ビーチ、離島・観光航路や大型旅客船バースなどの特徴的な海辺の空間と機能を活かした、憩いと交流のまちづくりを推進します。海浜部までの快適で魅力的な歩行空間の創出や公共交通の利便性の向上を図り、中心部に隣接する立地条件を活かした多彩な都市機能が集積・充実する都市型リゾート地区の形成を推進します。また、海に親しめる安全安心でゆとりある住宅地の形成を図ります。かつての港町の歴史を今に伝える地域の歴史・文化遺産を活かした、潮騒が聞こえ・歴史が薫るまちづくりを進めます。



公共交通・道路



交流スポット



その他



※凡例は各地域共通

地域の土地利用の方針

- 海浜部に隣接する良好な住宅地の形成
- 国道 58 号沿道の広域的な業務機能の充実
- 海浜部に隣接する立地条件を活かした多彩な都市機能の充実
- 港町の歴史を伝える歴史・文化遺産を活かしたまちづくり

低中層住宅地区

若狭 2・3 丁目は、宿泊施設などとの建物用途の混在を抑制し、低層の戸建て住宅と調和した低中層の共同住宅地が共存する良好な住宅地の形成を進めます。

中高層住宅地区

久米 1・2 丁目などは、魅力的なオープンスペースの創出による地域の環境にあった高度利用を図り、中心部への近接性を活かした高層のマンションなどが立地する都市型居住の土地利用を図ります。

住宅団地地区

地区計画制度などを活用し、緑化やオープンスペースの確保などにより、周辺の住宅地と調和した良好な住宅団地の形成を進めます。

商業サービス地区

前島や松山は、周辺住宅地に配慮した飲食店などの商業サービス施設が立地する土地利用を進めます。

業務地区

国道 58 号沿道は、広域的な業務機能が集積する地区として、基盤整備の状況にあった土地の高度利用を進め業務機能の充実を図ります。

都市型リゾート地区

若狭、辻、東町などは、水辺空間を活かした訪れる人と暮らす人が憩い安らぐ都市型リゾートとして、多様な都市機能が集積した土地利用を図ります。また、西の倉庫街や周辺の大きな街区では、情報通信産業などの業務機能や商業施設、宿泊施設などの観光・交流機能などへのリノベーションや土地利用転換を図り、魅力的なオープンスペースの創出による地域の環境にあった高度利用を図ります。

地域内幹線沿道地区

若狭大通り（県道 43 号線）や県道 47 号線などの沿道は、暮らしの利便性を高める商業機能や業務機能と中高層の共同住宅が共存する複合用途の建物が立地する土地利用を図ります。

幹線沿道地区

臨港道路（港湾 1 号線）や松山線（久米若狭線）の沿道は、低層部の住宅利用が抑制された沿道型の商業施設や業務施設、中高層の共同住宅などが立地する土地利用を進めます。

地域の土地利用方針図



土地利用

低層住宅地区	地域型生活サービス地区	都市型リゾート地区	集落環境保全
低中層住宅地区	近隣型商業サービス地区	流通・産業地区	都市公園等
中高層住宅地区	商業サービス地区	地域内幹線沿道地区	学校等(白枠)
住宅団地地区	業務地区	幹線沿道地区	モノレール

※凡例は各地域共通

地域の交通体系の方針

- 水辺景観を活かした西海岸道路などの幹線道路の整備
- 海浜部への快適なアクセス道路や公共交通の整備
- 住宅地内における安全安心で快適な交通環境の創出
- 地域の顔となる道路空間の形成
- 歩行者と自転車の快適な利用環境の整備

■誰もが移動しやすい公共交通ネットワークの体系方針

国道 58 号において検討されている鉄軌道を含む新たな公共交通システムについて、関係機関との連携のもと、導入促進を図ります。また、若狭クルーズバスでは、大型クルーズ船が入港した際、観光客の公共交通手段が不足していることから、若狭クルーズバスと中心拠点とを結ぶ公共交通軸の形成に向けて、検討を行います。

これらの主要な公共交通機関の乗り換えの快適性、利便性の向上を図ります。

■路線ごとの道路体系方針

	路線名および路線位置	体 系 方 針
広域的な幹線道路	・ 国道 58 号 ・ 臨港道路（港湾 1 号線）	広域的な道路として交通の円滑化を進めるとともに沿道環境の整備と併せて、良好な歩行空間の形成を促進します。
	・ 西海岸道路（那覇北道路）	空港など西海岸の主要な拠点を連結し、西海岸地域の交通混雑緩和と都市機能の促進を誘導する役割を果たす重要な骨格道路であり、周辺環境に配慮した整備を促進します。
	・ 松山線(久米若狭線)	西海岸道路や旅客船バス、龍柱のある若狭緑地と中心市街地を結ぶ、シンボルロードとしての整備を図ります。
地域の幹線道路	・ 若狭大通り、上之蔵大通り(県道 43 号線)	交通の円滑化や歩行空間の確保だけでなく「地域の顔となる道路」として特色ある魅力的な道づくりを図ります。
	・ 県道 47 号線 ・ サンシャイン通り（国道 390 号） ・ 西消防署通り（東町西線） ・ 松山若狭線 ・ 前島若狭線 ・ 松山 7 号 ・ 辻 1 号 ・ 臨港道路那覇 2 号線	通過交通を抑制することにより、交通の円滑化を進め、沿道環境の整備に併せて良好な歩行空間の形成を図ります。
主要な生活サービス道路	・ 松山 23 号 ・ 前島 7 号	歓楽街の中を通る商店系のプロムナードとして通過交通を抑制し、歩行者の安全性、快適性に配慮した道路整備を図ります。
	・ くになだなかみち（久米 24 号） ・ 東町 1、10 号	久米、東町の住宅地、商業地の生活基盤となる主要な生活サービス道路であり、那覇商業高校、上山中学校、天妃小学校の周辺道路となっていることから、通過交通を抑制し、歩行者の安全性、快適性に配慮した道路整備を図ります。
	・ 東町 17 号 ・ 西 7、17 号 ・ 若狭 1、2、8 号 ・ 辻 9、23 号 など	広域幹線と地域幹線の間に位置した地域の生活基盤となる生活道路で、都市型リゾート地区としての周辺環境に配慮し、歩行者の安全性、快適性に配慮した道路整備を図ります。
	・ とまりん(泊ふ頭)～若狭海浜公園～波の上ビーチ～小船溜～三重城の水辺をつなぐ道 ・ 潮渡川沿いの道（夫婦橋から若狭公園に至る道路）	貴重な水辺空間を有機的に連結する護岸などを利用した人中心の快適な歩行空間の創出を促進します。

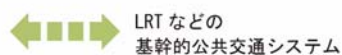
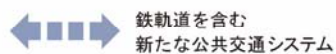
地域の交通体系方針図



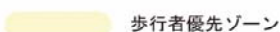
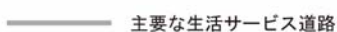
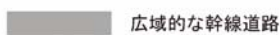
公共交通



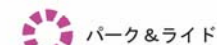
将来公共交通ネットワーク



道路



交通結節点



※凡例は各地域共通

安全安心な地域形成の方針

- 利便性の高い快適な市街地の形成
- にぎわい空間の形成による都市型リゾートの魅力づくり

基盤整備済地区

地区計画制度を活用している松山地区は、地区計画の目標や整備方針にあわせた適正な市街地の形成を図ります。その他の地域では、建替え時に土地の無秩序な細分化などによる環境の悪化を防止し、地区計画や建築協定、緑化協定などにより、建物用途の混在抑制や緑化の推進、街並み景観の形成などの良好な市街地環境の維持・向上を図り、総合設計制度などを活用し、良好なオープンスペースの創出による都市型リゾートの魅力づくりを進めます。また、一方通行などの交通規制の活用などにより、歩道空間の確保や緑陰の創出などの歩行空間を向上させる市街地の形成を図ります。

防災まちづくり

本地域は、海拔の低い地域が広がり、高潮や津波による浸水予測地域となっているため、一時避難施設として那覇市津波避難ビルや民間の津波避難ビルがあります。また、那覇ふ頭地域や泊ふ頭地域、若狭クルーズバースなどの交流拠点が立地し、国内外からの観光客が多い地域です。高潮・津波の襲来時に緊急一時的に避難できる施設の確保や、災害発生時に一時的な避難者受け入れのため、事業所のロビー、会議室、ホールを開放するなど、事業者の協力による防災機能の向上や、災害時に観光客がスムーズに避難できるよう、地域住民や事業者の協力により、安全に避難できる仕組みづくりを進めます。

久米や松山の一部を除く、高潮・津波の浸水リスクのあるエリアでは、災害リスクおよび被害軽減に向けた意識啓発を進め、津波に強い構造や、浸水を逃れる階数・階高の確保など、被災後も居住機能を維持できる建築物についての情報発信を図ります。

避難場所・避難所・樋川・井泉

公園などの避難場所や小中学校などの避難所は、多様な使われ方が可能なオープンスペースの確保、耐震化やバリアフリー化を図ります。また、地域の湧水は、災害時に上水道が使えなくなった場合の飲料以外の生活に必要な水を確保するため、状況把握や保全などの取り組みを進めます。

安全安心な地域形成方針図



市街地形成

- 集落形態保全地区
- 基盤整備済地区
- 基盤改善地区
(機能向上型)
- 基盤改善地区
(面的改良型)
- 基盤改善地区
(基盤再生型)
- マチグワーエリア

防災

- 浸水リスクのあるエリア
- 土砂災害リスクのあるエリア
- 人 地域の避難場所 ※
- 人 地域の避難所 ※
- 台風・大雨洪水時の避難施設
- 地域の樋川・井泉

その他

- 公園・緑地
- 海・河川
- 幹線道路
- 計画・構想道路
- 市街地開発
事業区域

※凡例は各地域共通

※ 避難場所・避難所について…浸水リスクのあるエリアでは、津波・高潮・洪水時を除く。土砂災害リスクのあるエリアでは、土砂災害時を除く。

暮らしと交流の方針

- 緑陰の創出による快適な歩行空間の形成
- 海辺と中心市街地を結ぶ魅力あるシンボルロードの形成
- 潮渡川や海岸線などの自然環境を活かした水辺の親水プロムナードの整備
- 海から見える美しい景観の形成
- 公園や歴史・文化遺産のネットワーク化による魅力づくり
- 福州園や天妃宮などを核とした歴史性あるクニンダのまちづくり

公園・広場・緑・水辺

公園内の緑化を推進し、街路の緑化とあわせて緑の連続性を生み出すとともに、海浜部に位置する特性を活かした特色ある公園・緑地の形成を図ります。また、公園・緑地の柔軟な管理・運営により、港町として愛される親水空間の創出を促進します。

那覇ふ頭明治橋から泊漁港周辺は水辺の軸として、訪れる人が水辺を感じることでできる親水プロムナードの創出を促進します。また、潮渡川は、水質浄化とあわせた自然化・親水化や緑化により、生物や人にやさしい地域のうるおい空間の創出を図ります。

幹線道路や主要な生活サービス道路などは積極的に緑化を進め、水辺と緑をつなぐ市街地の緑の軸として、生物の移動空間のネットワーク化やうるおいのある歩行空間の創出を図ります。

景観・眺望

本地域は、西側を海に接し、本市唯一のビーチである波の上ビーチを有しており、海辺の特徴を活かした夕陽が美しく映え、愛着を感じるウォーターフロントの景観形成を図ります。

とまりんや泊大橋では、海と市街地を望む眺望景観の保全を図ります。また、海や波上宮からは、海岸線を有する地域にふさわしい眺望景観の保全・創出を図ります。

シンボルロードである松山通りや、若狭大通りなどの地域の顔となる道路は、街路樹による連続した緑陰の創出や特色ある整備を図り、屋外広告物や公共サインのデザイン誘導などによる景観の形成を図ります。

西2丁目の倉庫街やその周辺では、宿泊施設や商業施設、マンションなどの中高層建築物の立地が増加していることから、エリアの魅力を向上させる街並みに調和したデザインや、低層部のうるおいにぎわいを創出する景観形成を促進します。

歴史・文化遺産・歴史の散策路

上天妃宮跡の石門などの指定文化財や、クニンダ(久米村)の歴史、福州園、波上(波上宮・護国寺)、三重城、夫婦岩、ユーチヌサチなどの地域に残る歴史・文化遺産は、まちづくりの要素として保全・活用を進め、歴史の散策路と一体となった歴史・文化とふれあう場の創出により、地域に暮らす人が身近なまちの良さや歴史を再発見できる仕掛けづくりを図ります。埋め立てなどにより喪失した歴史・文化遺産などは、説明板などを設置し、歴史性を感じることができる空間づくりを進めます。景観資源として指定されている福州園のガジュマルなど、地域に残る古木・大木は、市街地にうるおいを与えると同時に、地域の歴史を継承する貴重な資源としての積極的に保全を図ります。

交流スポット

大型旅客船バース(若狭クルーズバース)は、多くの観光客が訪れる玄関口であり、周辺の土地利用の誘導や景観形成、緑陰の創出などにより、魅力的な交流拠点の形成を目指します。

地域に残る歴史・文化遺産や観光スポットなどをつなぐ道路は、景観形成、緑陰の確保、段差の解消、無電柱化、南国らしさを感じることでできる花々による魅力の向上など、観光客や

歩行者にやさしく快適な道路空間の形成を図ります。

既存の公民館・図書館の活用により、まちづくりなどのコミュニティ活動を促進するとともに、小中学校などの公共施設は、コミュニティの拠点として積極的に開放を進めます。また、施設のリニューアルなどの際には、交流スポットとして利用しやすい機能配置や施設整備を図ります。

暮らしと交流方針図



緑・水辺

- 公園・緑地
- 自然緑地
- 緑の軸
- 水辺の軸
(河川・海)
- 公園空白地域

歴史・景観

- 歴史・文化遺産
(馬場道跡などの場合)
- 集落景観
- 都市景観形成地域
- 景観資源
- シンボルロード
- 地域の顔となる道路
- 歴史の散策路
- 眺望

交流スポット

- 歴史文化スポット
- 自然・レクリエーションスポット
- コミュニティスポット
- 商業交流スポット
・広域的な商業機能
・駅周辺の商業機能
・徒歩圏の生活サービス機能
- 交通交流スポット

※凡例は各地域共通